

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
令和4年度 第1回外部評価委員会 議事録

日時：令和4年8月30日（火）  
場所：農林水産総合技術支援センター大会議室

## 1 普及指導活動の評価

### ○高度技術支援課

<意見・質疑応答>

#### ●総合窓口について（質疑）

委員：ワンストップ窓口について、具体的にはどのような形で進めているのか。

回答：多くの場合は、電話で相談があり、電話で対応しかねる場合は現地に向かう。  
基本的には状況に応じて、その場ですぐに解決することを目指している。

委員：ワンストップ窓口にあった相談は、各地域の支援センターと連携はしているのか。

回答：相談のあった地域の支援センターと情報共有をしている。

#### ●「環境負荷低減に配慮した新技術」について（質疑）

委員：土着天敵について、県内では、トマトといちごでの導入が進んでいるが、理由はあるのか。

回答：微小害虫等は農薬だけでは防除できないことから、天敵の導入が進んでいる。  
また、施設栽培等の作期が長いものは、農薬の回数限度や身近に天敵が捕獲できるという点で、導入が進んでいる。

### ○吉野川農業支援センター

<意見・質疑応答>

#### ●IPMによる生産振興、費用について（質疑）

委員：土着生物の活用や防虫ネット等、IPMに関する資材は経費がかさむが、費用の削減についてどのような考えか。

回答：試算は行ってきているところ。農薬散布回数が減ると経費削減になる。また、天敵を使った場合、天敵導入の経費はかかるが、散布回数が減るという労力面のメリットがある。

#### ●担い手の確保について（質疑）

委員：昨年度において、就農者が比較的多いのはなぜか。

回答：新規就農をする際は、国の給付金（農業次世代人材育成投資資金）を活用するケースが多く、年によって変動がある。

委員：それに関連して、地域的にどのくらいの数が入ってきてくれたらよいか、数字を把握しているのか。

回答：新規就農者の育成目標は、具体的にはお示しできないが、相談数は増えていることから、新規就農の数は、今後も増えていくと思われる。

## 2 教育研修業務の評価

### <意見・質疑応答>

#### ●コロナ禍での学生生活について（意見）

委員：青年クラブの活動で、農大の学生にアンケートを実施したが、コロナ禍であることから、現状への不安や、やりきれない気持ちが伝わってきた。アフターコロナを見据え、現時点の課題を明らかにし、今後の取組に活かしてほしい。

回答：学生には、様々な我慢を強いてしまっている。教員がフォローし、就職活動についてはリモート等も活用し、少しでも学生が希望する活動ができるようにしていきたい。

#### ●スマート農業学習について（質疑）

委員：スマート農業の取組状況について教えてほしい。

回答：本科の学生に関しては、タブレットの導入、授業の充実、ドローンの操作実習を行うほか、環境モニタリング装置を用いたプロジェクト活動を実施している。環境制御技術については、施設園芸アカデミーではメインテーマで取り扱っており、かんきつアカデミーでも、環境モニタリング装置を用いた研究を実施している。